

ホクコーロングキック® ジャンボ

■種類名：クロメプロップ・フェントラザミド・ベンスルフロンメチル粒剤
 ■有効成分：クロメプロップ-----9.0%
 フェントラザミド-----6.0%
 ベンスルフロンメチル-----1.5%
 ■PRTR法指定物質：フェントラザミド [第1種] -----6.0%
 ドデシル硫酸ナトリウム [第1種] -----1.2%

■登録番号：第22242号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2008.09.10
 ■性状：類白色細粒、水溶性パック入り、
 1パック50g
 ■有効年限：3年
 ■包装：500g x 20袋

【特長】

- 水稻に対する安全性が高い、一発処理除草剤。
- 3つの成分の働きにより、ノビエをはじめとする一年生雑草から多年生雑草まで幅広い雑草の発生を長期間抑制する。
- フェントラザミドとクロメプロップの相互作用で、SU抵抗性雑草に高い効果を発揮する。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ(東北) ヘラオモダカ オモダカ(東北) ヒルムシロ セリ クログワイ(東北) アオミドロ・藻類による 表層はく離(北海道)	移植直後～ ノビエ 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	砂壤土 ～埴土	小包装 (パック)10 個 (500g) /10a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	北海道 東北

クロメプロップを含む 農薬の総使用回数	フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	1回	2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失わないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。
 ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイの防除は、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、整地や代かきはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特にていねいに行うこと。
- 処理に当たっては水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用を避けること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田
- 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められない。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- ❖ 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
 - ① 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
 - ② 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当をうけること。
 - ③ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。